

Ⅳ 溪流生態系の再生

＜主要施策の取組状況＞

1 溪流生態系の調査モニタリングと保全・再生手法の検討

- ・ 溪畔林整備を行った箇所について、植生調査等の事後調査を行った。また、モニタリング結果に基づき、所内でのワーキンググループでの意見交換の結果も踏まえた上で、「溪畔林整備の手引き」の原案を作成し、溪流生態系保全・再生手法の検討を進めた。
- ・ 溪流環境調査として、溪畔林整備を行っている河川で魚類調査、餌資源調査などの定点調査を行うことで、溪畔林整備の効果を評価する調査手法を検討するとともに、魚類や底生生物、落下生物、流下生物と周辺の溪畔林環境について、溪畔林整備事業の効果評価に資する指標の検討を行い、溪畔林によって保全される淵が魚類の生息環境として重要であることを明らかにした。また、安定同位体比をマーカーとして溪流環境の食物連鎖網を分析したところ、秋期の魚類の栄養源は陸生成物よりも水生生物に強く依存していることが示唆された。
- ・ 酒匂川水系の丹沢在来ヤマメが生息すると考えられる支流において、NP0 とともに産卵場を造成し、産卵が確認された。（Ⅵ希少種の保全再掲）

2 溪流生態系の保全・再生事業の実施

- ・ ダム湖堆砂抑制等のため、砂防工事（1箇所）と治山工事（16箇所）を実施し、ダム湖への土砂流出の防止が図られた。
- ・ 溪畔林整備として仲の沢ほか2流域で間伐（2.6ha）や植生保護柵設置（292m）、丸太筋工等の土壌保全工（353m）を実施した。
- ・ 下層植生衰退地において植生保護柵を主な工種とする土壌保全工の施工を10.6ha実施した。（Ⅰブナ林再生、Ⅴシカ等野生動物の保護管理再掲）

○ダム湖堆砂抑制等のための土砂流入防止対策等実施状況（平成26年度）

砂防工事	治山工事
1箇所	16箇所

○平成26年度溪畔林整備事業実施状況（白石沢ほか2流域・平成26年度）

本数調整伐等	植生保護柵設置	丸太筋工等土壌保全工
2.6 ha	292 m	353 m

溪畔林整備施工地（本谷川）



溪畔林整備施工地（仲の沢）



溪流環境調査（底生生物調査）実施状況



○溪流生態系の再生に関する事業実施場所（位置情報のある事業のみ掲載）

